



TIAニュース

やあ!

ya!

URL:<http://tia21.or.jp/>

E-mail:tia@tia21.or.jp



新年のごあいさつ

公益財団法人栃木県国際交流協会 理事長 鈴木誠一



「2013年」を迎え、新年のお慶びを申し上げます。この年が皆様にとりまして健康と幸せに満ちた1年となりますことをお祈りいたします。また、日ごろから当協会の運営につきまして、温かいご支援、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

旧年中は、多文化共生カレッジ、やさしい日本語実践セミナー等を開催させていただき、多くのご参加を賜りました。心より感謝申し上げます。本年も外国の方々が、気軽に参加できる更なる多文化共生事業の推進にまい進していく所存でございますので、皆さまのお力添えをお願いし、新年のごあいさつといたします。

「やさしい日本語実践セミナー」



▲行政職員対象に豊富な事例を用いて講演する庵氏



▲一般を対象とした金子氏の熱気あふれるセミナー

TIA は栃木県との協働事業として、多文化共生の推進のため、外国人と日本人との円滑なコミュニケーションを目指す「やさしい日本語」を広める事業を展開している。その一環として、「やさしい日本語実践セミナー」を外国人と接する機会のある行政職員を対象に平成24年6月26日(火)にとちぎ国際交流センターで開催した。講師は一橋大学国際教育センター准教授の庵 功雄氏。また、一般向けセミナーを武庫川女子大学文学部教育学科非常勤講師の金子正子氏を講師に迎え、平成24年7月から9月にかけて県内3か所で開催した。参加者総数は119名。セミナーでは、やさしい日本語が必要な背景、普通の日本語からやさしい日本語への言い換えや書き換えのポイントなどを学んだ。

2013年1月号

No.121

Winter

- ◆国際交流団体紹介
- ◆ようこそとちぎへ
- ◆JICA 情報局
- ◆TIA インフォメーション

栃木県日中友好協会

栃木県国際交流員(米国) クリストファー・カレンさん

「栃木から世界へ」(平成24年2次隊 JICA ボランティア)

「宮っ子チャレンジウィーク」

「多文化共生カレッジ～さくら編～」

日本人と外国人がお互いの言語や文化を理解することを目的とした「多文化共生カレッジ」(全8回)をさくら市国際交流協会との共催で、9月1日から11月4日まで、さくら市氏家公民館で開催した。在県外国人が多い中国、



▲ペルー料理を作る参加者

ブラジル、ペルーそして日本の4か国に焦点をあて、語学体験のほか、料理や音楽などの文化体験を行い、日本とは異なった文化に参加者一同は、驚きと発見を感じていた。さらに、毎回の講師の方々に熱心に質問をする姿もしばしば見られ、最終日には「外国人と仲良くなるためにはどのようにしたらよいか」というテーマで、グループディスカッションも行っており意見を発表し合い、偏見を持たずお互いを理解することの重要性を認識した講座となった。

「医療通訳ボランティアセミナー」

医療通訳について理解を深める「医療通訳ボランティアセミナー」をとちぎ国際交流センターで開催し、延べ61名が参加した。第一部として「講演会」を11月10日(土)に、医師であり、医療通訳トレーナーの押味貴之氏を迎え、医療通訳に関わる最近の研究の紹介、相手にわかりやすく伝える話し方等のトレーニングや医療用語の正しい理解がより良い通訳につながることを学んだ。第二部として実際に医療現場での通訳を想定した「ワークショップ」を12月1日(土)・8日(土)にNPO法人多言語社会リソースかながわ(MICかながわ)の指導のもと、医療機関からの通訳依頼が多いスペイン語、ポルトガル語、中国語の各言語に分かれて行い、予防接種前の診察、検査結果の説明などさまざまな場面での通訳の練習を行った。



▲外国人患者と医師のやり取りを
交替で通訳する参加者

「平成24年度栃木県海外技術研修員受入」

平成24年度海外技術研修員が9月4日から1月31日までの約5か月間、栃木県で研修している。今年度の研修員は栃木県の友好交流先の中国浙江省から浙江省人民政府の推薦で、杭州市内の病院で看護師長として勤務している「杜麗萍」さん。杜さんは、1か月半の日本語研修を行い、現在は、専門技術を磨くため、研修先である済生会宇都宮病院で、専門の神経内科をメインに、救急センター、ICU、看護学校などで研修に励んでいる。



▲研修先の医療スタッフのみなさんと(後方中央が杜さん)

「日本の医療設備は中国より便利で衛生的。患者さんの治療以外に心のケアも行き届き、快適な医療環境で、病気も早く治りますね。」と話す。医療分野は日進月歩とよくいわれるが、杜さんは1月末の帰国までの期間、日本で学んだ技術や管理方法を母国に戻ってから、伝えようと頑張っている。

「相談員・通訳協力者実務研修会」

11月17日(土)、とちぎ国際交流センターで「相談員・通訳協力者実務研修会」を開催し、TIAの通訳協力者や相談員等19名が参加した。神奈川県立地球市民かながわプラザの平塚淑江氏を講師に迎え、「外国人児童教育支援に関わる相談員や通訳者の役割」という演題で講演をいただいた。多文化の子どもたちのつまづきの多様な原因や背景、適切な支援につなぐためのコツなどを学んだ。講師の優しい語り口の中にも、外国人児童教育支援への熱意が感じられた。講演後には、外国人児童教育支援に関わって感じてきたことについてグループワークを行った。参加者からは、今までの経験上うれしかったことや困ったことなど活発に意見が出された。



▲活発な意見交換のグループワーク

「日本語教育セミナー」

全国的な日本語教育の流れを知るセミナー第二弾は「私が私を評価する!～日本語ボランティアと学習者のためのセルフチェックの方法～」と題して10月20日(金)、とちぎ国際交流センターで開催した。日本語教室のボランティアなど16名が参加。講師は公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)所属講師の品田潤子氏。それぞれの日本語教室における明確な目的や目標および達成度についてグループ内で話し合った。目的等を教室で話し合っておくと、ボランティア同士の理解も深まり、また外部や新しいメンバーにいつでも説明できるメリットもある。一方、学習者のセルフチェックとして、目標に沿った学習内容を考えたり、その後の達成度を学習者自身と教師が評価する方法が紹介された。豊富な指導経験を持つ講師の体験談もあり、和やかな研修会となった。



▲熱心に語り合う講師と参加者

「県内留学生ホームステイプログラム」

毎年、栃木県地域留学生交流推進協議会との共催で、県内の交流団体などに登録されているホストファミリーの協力を得て、TIAが実施している県内留学生ホームステイプログラムを10月23日(土)～24日(日)に実施し、県内の5大学から21名の留学生が参加した。県北地区は大田原で、県央地区はTIAで、県南地区は小山で対面式を行い、留学生は期待と不安を胸に抱きながら、ホストファミリーとともにそれぞれの家庭に向かった。

留学生やホストファミリーから、「今回のホームステイのようなプログラムを増やしてほしい」、「日本が好きで日本語が上手な留学生がいてうれしい。今後もお付き合いしていきたい。」などの意見が寄せられた。



▲参加した留学生とホストファミリー

「はじめての韓国語Ⅱ & はじめての英会話Ⅱ」



▲ホワイトボードを使って説明するマーク先生(右奥)

前回の講座の続編講座となる「はじめての韓国語Ⅱ」を10月3日～12月5日の毎週水曜、「はじめての英会話Ⅱ」を10月4日～12月6日の毎週木曜、共に全10回開催した。講師は前回の講座と同じく、「英会話Ⅱ」がマーク先生、「韓国語Ⅱ」がジョン先生。両講座とも前回の講座から継続して受講する方もいた。「韓国語Ⅱ」では、ハングル文字のおさらい、よく使われる動詞の活用やさまざまな表現を学んだほか、韓国文化・習慣の話や韓国料理「チヂミ」と「わかめスープ」を作り、試食した。「英会話Ⅱ」では、会話中心の講座を楽しみ、なごやかな雰囲気の中で英会話を学んだ。



▲会話練習をする受講者、奥がジョン先生

「マレーシアから研修員が来県」

前号で紹介した「JICA 草の根技術協力事業」におけるマレーシア研修員受入の第二弾として、家庭廃棄物不法投棄削減のモデル地区となるクチン市バコ村から、村長のハジ・ワヒッド氏と村長代理のハジ・モルニ氏の2名が9月3日～16日の14日間来県し、茂木町でコンポスト作成技術、住民による地域の美化活動、学校における環境教育などを学んだり、アジア学院で世界各国の農村リーダーたちと「地域のリーダーシップ」などについて討論した。

帰国に際し2人は、「研修で学んだことを生かし、バコ村のゴミ削減を進めたい」と語った。



▲茂木町の住民と地域の環境美化活動について話し合うワヒッド氏(右から2番目)とモルニ氏(中央)

「外国人のための無料法律相談会」

11月6日(火)～10日(土)の5日間、無料法律相談会をとちぎ国際交流センターで開催した。この相談会は、栃木県弁護士会との共催で、平成12年度から毎年一度、在県外国人の抱える法律問題の解決に向けた支援として行っている。英語、中国語、ポルトガル語、スペイン語の通訳に加えて、事前の予約によりその他の言語でも対応している。

今回も、県内外のさまざまな国籍の方からの相談を受けた。遠方に住む相談者には電話相談で対応した。借金返済が苦しくなった相談者には、破産手続の概要について説明がなされた。解決が難しい複雑な問題もあったが、相談者は母語の通訳を介し弁護士に相談することができ、満足した様子であった。

国際交流団体紹介

「栃木県日中友好協会」は、県内の国際交流の草分け的団体として、1980年に結成されました。これまで32年に上る活動実績があり、現在は福田富一栃木県知事が名誉会長、高橋文吉県議会議員が会長、会社社長の白石雄治氏が理事長を務め、150の個人と団体が加盟しています。

活動は、文字通り日本と中国に関する幅広い民間友好がねらいで、県内在住の中国人留学生や研修生との交流、中国帰国者(残留孤児)の支援、中国語学習会の開催、中国への友好訪問団の派遣などを行っています。特に3年前から行っている中国の小中高校生を招いての県内学校との交流事業は、子供たち、教師、父兄の皆さんに意義ある国際交流体験だと大好評です。

昨年は、7月から8月にかけて、中国浙江省を中心に5つの小中学校と高校1校の団体合わせて200人ほどが栃木県を訪問し、大田原市立紫塚小学校、宇都宮市立泉が丘小中学校、日光市立今市



▲中国語講座で熱心に学ぶ受講者たち

中学校、県立宇都宮工業高校、宇都宮短期大学附属高校の7校で交流活動を行いました。各学校では、中国の子ども達が同年代のクラスに入って日本の授業を体験したり、体育館

「栃木県日中友好協会」



▲東日本大震災時の街頭募金活動

で歌や踊り、民族楽器の演奏などの交流会を開催したりしました。初めは言葉の壁に戸惑う子供たちも、半日も一緒にいると筆談やジェスチャー交じりの交流で仲良くなり、お別れには名残惜しさに涙を流す子供たちもいました。通訳や案内役、ホームステイの受け入れを買って出た日中友好協会の仲間も一緒に感動を味わっています。また、こうした交流が縁で、お返しの訪問団が中国を訪れ、学校間の友好校締結へ発展する動きも出ています。尖閣諸島問題で日中関係が不安定な状況ですが、我々は、いまこそ民間外交の力で真の友好を作り上げるチャンスと思っています。そのため、本年も学校交流を柱として、各種の事業を予定しています。また、本年は栃木県と浙江省の友好提携20周年の記念の年でもあり、時期を見て友好訪問団の相互派遣を実現し、文化や芸術、産業交流を活発化したいと考えています。

(文：事務局長 豊田比佐夫)



▲県内の小学校で交流会の様子



**クリストファー カレンさん
（米国・ミネソタ州出身）**

生まれも育ちもミネソタ州。
昨年 8 月から県庁国際課に勤務。故郷ミ
ネソタ州に両親と妹がいる。趣味はサイ
クリングと DJ。愛称はクリス。

ークリスさんはじめまして。栃木県は初めてですか？

はい。栃木県は初めてです。しかし、大学時代に広島に留学し
ていたため、長期滞在には慣れていました。アメリカの大学卒業後、
石川県の輪島市で ALT として英語を教えていました。来日前から
「日光」は世界的な観光地として有名でしたので知っていましたが、東京から北のほうへは来たことがなかったので、宇都宮は初
めてでした。でも、緑も多く、都市的な雰囲気もあり、とてもき
れいな町だと思いました。

ー県庁でのお仕事や栃木県の生活はいかがですか。

国際課では主に栃木県の友好交流先である米国インディアナ州と
の交流のお手伝いをしていますが、皆さん親切な方で毎日楽しいです。

インディアナ州は私の故郷ミネソタと同じ中西部にありますので、とても
親近感があります。他にも、日光大使館ウィークや県内小中高の国際
理解講座、スウェーデンとの交流など楽しみながら仕事をしています。
また、私の趣味はサイクリングということもあり、栃木県は自然が多いの
で、休日はあちこち自転車で出かけています。もちろん通勤も自転車
です(笑)。益子や日光の中禅寺湖まで、自転車で行きました。その他、
ミネソタは多くの有名な歌手を輩出しているせいか小さいころから音楽
好きで、DJ も趣味の一つになっています。前に ALT で石川県にいたこ
ろは、金沢市内で DJ もしていました。現在、宇都宮でも月 1 回ほど小さ
なバーで DJ をしています。DJ はホントに楽しいですよ。

ー充実した生活のようですね？最後に抱負を聞かせてください。

栃木県で仕事ができる機会を生かして、とにかく楽しく仕事をしてい
きたいですね。現在の交流事業以外に、趣味と実益を兼ねて、ぜひ
「音楽祭」を開催したいと思っています。自分も高校時代バンドを組ん
でいた経験があり、音楽関係の友
達がミネソタにいたので、協力も可
能かなと思います。それから、自転
車で東北方面を旅行してみたいで
す。遠いかな？(笑)



▲ミネソタのお父さんと

**JICA
情報局**

【栃木から世界へ！】
平成 24 年度 2 次隊 JICA ボランティア

平成 24 年度 2 次隊 JICA ボランティア 2 名が 10 月に中南米に
向けて出発しました。覚えてたスペイン語で楽しく会話をしていた菊
地さんと郡司さんにインタビューしてみました。

【青年海外協力隊 2 名の方の活動内容&抱負です。】



菊地恭子さん（那須塩原市出身）

コスタリカ国立大学で、第 2 外国語として日本語
を選択している大学生を対象に日本語を教える。現
地で日本語を学んでいる人達に、日本語を楽しく学
んでもらうとともに、日本文化も紹介し、日本のことを少しでも知ってもら
いたい。コスタリカの文化をたくさん吸収して帰ってきたい。



郡司美里さん（那珂川町出身）

身寄りのない老人達を保護している施設が運営を
しているベネズエラの農場において、農業指導を行
う。初めから教えるという意識で活動するのではなく、
共に活動することで交流を深め、現地の人々が何を求めているのか、
何が必要なのかをきちんと見極めて活動して行きたい。

★みなさん 2 年間の草の根ボランティアをがんばってってください。

【問合せ】TIA 内 JICA 栃木デスク 028-621-0777

あしぎん国際交流財団から TIA に助成金

10 月 31 日(水)に足利銀行本店で助成式が行われ、TIA に助成
金をいただき、日本語学習支援事業などで有効に活用させていた
だきました。誠にありがとうございました。

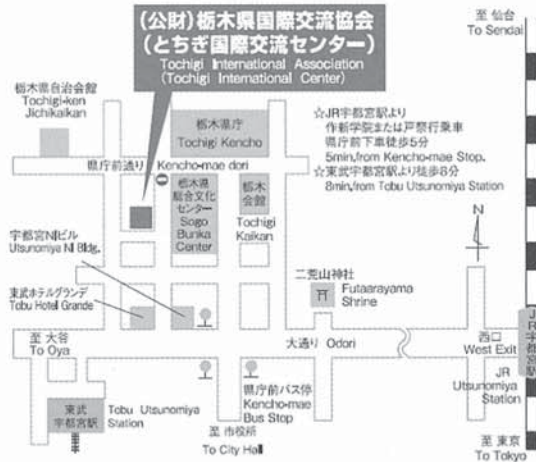
宮崎チャレンジウィークで TIA 職場体験

11 月 24 日(火)～30 日(金)の 4 日間、宇都宮市立豊郷中学
校 2 年生の生徒 2 名が TIA で職場体験を行いました。TIA や
JICA の事業内容、県内の国際化事情などについて理解を深め
てもらった後、ライブラリーの図書や資料の整理、TIA が開講し
ている語学講座への体験参加など
をしました。また、企画展示室の設
営をお願いしたところ、各国の本の
違いに主眼をおいた「世界の本」と
いう展示を作ってくれました。



▲展示作業の様子

TIA と案内図



編集・発行 公益財団法人栃木県国際交流協会
住 所 〒320-0033 宇都宮市本町 9-14 ちぎ国際交流センター内
T E L 028-621-0777 (代表) 028-627-3399 (相談専用)
F A X 028-621-0951
業 務 時 間 8:30～17:15
休 館 日 日曜・月曜・祝祭日及び12月29日から1月3日